

現代中国語にみられる空間認識

丸尾 誠 (まるお まこと)

中国語の「方向補語」は、移動動詞に限らず、さまざまな意味をもつ動詞や形容詞と共に用いられるが、それらの用法は、一定の基本的枠組みに基づいて派生したと推測される。中国語にみられる空間認識の複雑さを、認知的アプローチで説明することを試みる。

一 はじめに

現代中国語における空間表現に関する文法研究のテーマとして、主に次のような点に着目したものが挙げられる。

- ・ 方位詞の用法
- ・ 方向補語の用法
- ・ 場所を表す前置詞の用法
- ・ 移動動詞と場所目的語の結びつき

例えば「方位詞の用法」については、存在を表す文におい

のかという認知的角度からのアプローチが可能である。

紙幅の関係で、今回扱うのは「方向補語の用法」についてのみである。中国語でいう補語とは「動詞や形容詞の後に付いて補足説明する成分」のことであり、「様態補語」「結果補語」「可能補語」ほかにいくつかの種類が挙げられる。「方向補語」とは、方向移動動詞、上「上がる」、下「下りる」、進「入る」、出「出る」、回「戻る」、過「通過する」、起「上がる」および、来「来る」、去「行く」を単独で(例、飞来「飛んでくる」)、あるいは組み合わせ(例、跑进去「駆け込んでいく」)用いる形式である。そして以下にみるように、日本人にとっては一見移動とは関わりをもたないよう思われる行為、事象、状態変化などに対しても、中国語ではこの方向補語を用いて表すケースが多くみられる。小稿ではそうした用法に反映される中国人の空間認識の諸相について探る。

二 多用される方向補語

既述の言語事実に該当する例を少し挙げておく。

(2) a 把手伸过去「手を伸ばす」

て、名詞によってその後「里」の中、「上」「の上」。(以下、中国語は、で示す)を付加して場所化する必要があるか否かという点で差がみられる言語事象に対する考察が少なくない⁽¹⁾。この場所に対する認識は、とりわけ

- (1) a 在操场上/里跑步「グラウンドでジョギングする」
b 在电视上/里看到了「テレビで見た」

のように両者の使用に互換性がみられる場合において、その選択に際して、対象の属性に関わるどの側面に着目している

- b 把键按下去「パソコンなどの」キーを押す」
c 凸出来「出っ張る」——凹进去「へこむ」
d 把袖子挽上来/挽上去「袖を捲り上げる」
動詞、过、の表す基本義は「通過」であり(例、过桥「橋を渡る」)、これは補語として用いられた場合でも同様である(例、跳过墙「壁を飛び越える」)。これにより、次の(3) a のような方向転換、または(3) b のような状態変化を表す場合にも、あちら側(の世界)とこちら側(の世界)という領域の間に「心理的な境界」を設定できる。

- (3) a 回过头「振り返る」
b 醒过来「意識を取り戻す」——晕过去「気を失う」
これに対し、(2) a のように通過域が均質な空間となつているために、そこに「仕切り」を導入することができない場合にも、过、が現れる。そして中国語では、递过「手渡す」、接过「受け取る」、夺过「奪う」のような「二者間における」やりもらい」を表すフレイズについても、往々にしてこの、过、が現れる。これらは、跳过墙「のように通過点」がプロファイルされるタイプではなく、モノの移動に伴う起点と着点という二点が浮かび上がる構図で捉えられるものであ

り、これは「境界」の異なる形での実現であるといえる。また(2) a~dに現れる。来/去、はいずれも、日本人にとつてはむしろ「余分なもの」のように思われる。

三。来/去、の表す意味

中国語では上記。上、下、進、出……など絶対的方向を表す移動動詞はその後に場所を表す語を強く要求するものであり、例えば、他進房間了。「彼は部屋(の中)に入った」から場所目的語を欠いた。*他进了。は「彼は(中に)入った」の意味では成立しない(「*」はその表現が不適切であることを示す)。ただし、他进来了。「彼が(中に)入ってきた」であれば、主観的視点からの位置関係が反映されているため成立する。このように、来/去、の有するダイクテックな機能により、場所概念が表現されることになるものの、去、に関しては日本語では必ずしも「行く」が現れない点に相違がみられる。

- (4) a 出去买东西「買い物に出かける」(↓* 出买东西)
- b 我要回去了。「私は帰ります」(↓…: 回了。)

主体の移動を表す場合には、当該の動詞の組み合わせは先

- b 放回去「(元の場所に)戻す」
- c 拿下来「(下に)下ろす」

主体あるいは対象の動態的な移動が認識できる場合には、その方向性を対称的に捉えて、来/去、のいずれを用いることも可能である。

- (7) a 走进来/走进「(歩いて)入ってくる/入っていく」
- b 投进来/投进去「投げ入れてくる/ (向こうに)投げ入れる」
- c 放进来/放进去「こちらに/あちらに入れる」

(7) cのように移動経路が問題とならない場合にも、その着点に存在する話者との位置関係に方向性が反映される。しかしながら、非移動的な他動詞表現については不均衡であり、とりわけ、来、の使用に多く制限がみられる。

(8) 把名字刻进去「名前を刻み込む」(↓…: 刻进来)

これについては、動作を働きかける着点領域に発話者として人間が存在しえないようなケースが多くみられることが、その大きな要因となっているといえる。去、が客観的な立場から移動自体について言及できるのに対し、来、を用い

の、跑进去、や、带回来。「持って帰ってくる」のように逐語訳的に対応しているものが多いこともあって、比較的理解しやすい。しかしながら、とりわけ対象への働きかけを表す場合には、例えば「蹴る」をボールなど対象の動きを反映させた、踢过去。「(向こうに)蹴る」のような組み合わせで表現する難しさに加えて、移動対象との関連が見出しにくい動作表現にまで、先に触れた統語的制約から往々にしてこの来/去、が現れることが、日本人が中国語でこれらを表現することの難しさに拍車をかけているといえる。

- (5) a 把他的事迹写进报告里「彼の業績を報告書に書き込む」
 - b 把他的事迹写进去「」を書き込む」(↓…: 写进)
- 中国語では方向動詞の組み合わせのみでは他動詞的な意味を表すことができず、前に動詞を付加するという統語的操作が必要となる。例えば、进去、は「入る」の意味しかもたず、「入れる」という使役移動は、放进去、(放)は「置く、入れる」の意味)の形で示される。同様のパターンものを挙げておく。
- (6) a 放上去「(棚などに)上げる」

ると必然的に話者の視点が導入されることになる。

一方で、来/去、が方向性で解釈されるものではない例が多くみられる。

- (9) a 布料又收缩进去一寸多「布がまた一寸あまり縮んだ」【HSK 词语用法详解】
- b 溶进去「溶け込む」
- c 擦下去「ふき取る」
- d 从口袋里拿出来「ポケットから取り出す」
- e 把舌头伸出来「縮进去」舌を出す/引っ込める」

ここでは、来/去、の基本義である「接近・離脱」という方向性に関する概念が、「出現・消失」という状況把握に関する認識に適用されている。吃进去「飲み込む」、吸进去「吸い込む」など「取り込む」行為には、来、ではなく、去、が用いられるが、その場合にも消失義が関連しているものと思われる(马庆株(一九九七)参照)。

その他、来/去、の使い分けには、いわゆる「なわばり」の概念との関わりも見出せる。

- (10) 买进来「買い入れる」——卖出去「売り出す」
- ここでは獲得には、来、が、放出には、去、が用いられてい

る。こうした領域の違いが二人称が動作主体となる命令文において「語気の差」となって現れ、また、一・三人称について述べた叙述文においては主観的・客観的な立場という「視点の違い」に反映されることになる(詳細は丸尾(2005)参照)。

四 方向補語の派生義

空間義から時間義への意味拡張は多くの言語においてみられる現象である。中国語でみると、空間を表す語「上」「下」「前」「後」はそれぞれ、上午「午前」、上星期「先週」、下次「次回」、下个月「来月」および「前天」「おととい」、后天「あさって」のように時間の概念に適用される。動詞および前置詞として場所表現に用いられる「在」「いる・ある／＼で」が進行のマーカ―(「／＼している」ところだ)として用いられることも、その一例といえよう。本稿で扱っている方向補語については、いわゆる派生義の用法がとりわけ複雑でかつ重要となっている。辞書・文法書の類でも通常、この解説に相当のスペースを割くこととなる。文法研究論文においてしばしば引用される《趋向补语通

释》刘月华主编(北京语言文化大学出版社、一九九六年)では各種方向補語の表す文法的意味について、「方向義」「結果義」「状態義」の三つの側面から考察が加えられている。後二者について簡単に触れておくと、「結果義」とは「脱下来」「脱く」、写下来、「書き留める」(「下来」は前者では離脱、後者では固定を表す)などにみられるようなものである。到着を表す動詞「到」「着く」にも、V到、(Vは動詞)の形で「目的の達成」を表す用法がみられる(例「找到」「探し当てる」)。そして「状態義」とは、V下来「／＼してきた」、V下去「／＼続ける」、V起来「／＼はじめる」のようないわゆるアスペクトに関わる用法である。このうち、V起来「／＼して」についてみると、動詞フレーズ「起来」の「立ち上がる」という動作においては着眼点が起点からの離脱にあることが、時間的な始まり(開始義)とリンクする動機付けとなっている。また、通過を表す「过」についても、V过「の形で経験を表す助詞として機能する。

五 おわりに

方向補語「起来」の派生義の一つに、通常「ばらばら」もの

については、「トコロ性」の問題として荒川(一九九三)に夙に指摘がみられる。

(2) 请进。「お入り下さい」のような依頼の類では、場所目的語および、来／去、がなくても文は成立する。これは、発話の場面に依存して、言語化されていない着点が明確に認識できることによる。

【参考文献】

- 荒川清秀(一九九三)「日本語名詞のトコロ(空間)性—中国語との関連で」『日本語と中国語の対照研究』第六号。
 杉村博文(二〇〇〇)「方向補語、过、の意味」『中国語』二月号、内山書店。
 平井和之(一九九七)「／＼(起(来))」の結果義について」『中国語』二月号、内山書店。
 丸尾誠(二〇〇五)「現代中国語の空間移動表現に関する研究」白帝社。
 丸尾誠(二〇〇七)「过、の表す移動義について」『現代中国語研究』第八期、朋友書店。
 丸尾誠(二〇〇八)「現代中国語の補語、起来、について」『日中言語対照研究論集』第十五号(刊行予定)
 马庆株(一九九七)「V来／去、与现代汉语动词的主观范畴」《第五届国际汉语教学讨论会论文集》北京大学出版社。

(名古屋大学大学院国際言語文化研究科／中国語学)

のがまとまる」という記述で示される用法がある(例「团结起来」「团结する」)。このいわゆる集中義が想起させる「形成」という概念は、「結合」(例「连接起来」「つなぐ」)、「拘束」(例「抓起来」「つかまえる」)、「隠蔽」(例「藏起来」「隠れる、隠す」)などへの一連の転用を可能にするものと思われる(平井(一九九七)、丸尾(二〇〇八)参照)。また、「看出来」「見て分かる」における識別の意味や、写出来、「書き上げる」における完成の意味なども、出来、の表す出現義に基づくものとして理解できる。各種方向補語についてはその用法の多様性から、とりわけ個々のものを概括する概念を打ち出すことが困難となっているものの、こうしたイメージに基づく意味的な関連付けは教学上でもしばしば利用されており、中国人の空間認識を理解するのに、一定の有効性が認められるといえよう。

※本稿は、平成20年度科学研究費補助金基盤研究(C)課題番号19520338(代表者：丸尾誠)による研究成果の一部である。

【注】

(1) 名詞が文法的に場所性を有しているか否かという観点からの分類